

# 令和2年度 自己評価報告書

令和3年3月31日現在

渋谷ファッション&アート専門学校

# 目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価 .....	1	基準5 学生支援 .....	6
基準1 教育理念・目的・育成人材像 .....	2	5-16 就職等進路 .....	
1-1 理念・目的・育成人材像 .....		5-17 中途退学への対応 .....	
基準2 学校運営 .....	3	5-18 学生相談 .....	
2-2 運営方針 .....		5-19 学生生活 .....	
2-3 事業計画 .....		5-20 保護者との連携 .....	
2-4 運営組織 .....		5-21 卒業生・社会人 .....	
2-5 人事・給与制度 .....		基準6 教育環境 .....	7
2-6 意思決定システム .....		6-22 施設・設備等 .....	
2-7 情報システム .....		6-23 学外実習、インターンシップ等 .....	
基準3 教育活動 .....	4	6-24 防災・安全管理 .....	
3-8 目標の設定 .....		基準7 学生の募集と受入れ .....	8
3-9 教育方法・評価等 .....		7-25 学生募集活動は、適正に行われているか .....	
3-10 成績評価・単位認定等 .....		7-26 入学選考 .....	
3-11 資格・免許の取得の指導体制 .....		7-27 学納金 .....	
3-12 教員・教員組織 .....		基準8 財務 .....	9
基準4 学修成果 .....	5	8-28 財務基盤 .....	
4-13 就職率 .....		8-29 予算・収支計画 .....	
4-14 資格・免許の取得率 .....		8-30 監査 .....	
4-15 卒業生の社会的評価 .....		8-31 財務情報の公開 .....	

**基準 9 法令等の遵守** ..... 10

9-32 関係法令、設置基準等の遵守 .....

9-33 個人情報保護 .....

9-34 学校評価.....

9-35 教育情報の公開.....

**基準 10 社会貢献・地域貢献** ..... 11

10-36 社会貢献・地域貢献 .....

10-37 ボランティア活動.....

## 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和2年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>・創始者田中千代が建学の精神とした「美しい花には健全な根がある」に基づき、一人一人に潜在している能力を、基礎の習得と着実なステップアップにより引き出して、育てていく。</p> <p>・基礎を大事にした教育を行い、その基礎を土台として社会に通用するプロを育てる。</p> <p>・自立した精神に裏付けされた「個性と創造性」、時代変化に対応できる「柔軟性」、新しい世界観と自分を発見し、行動しながら人間としての基礎を築いていく「総合力」に重点を置いた教育を行う。</p> <p>・「教員と学生の距離が近い、丁寧な指導」をモットーにきめの細かい授業を展開する。</p>	<p>○服飾専門課程 本年度入学生から1科体制となり、1年生は入学して半年間ファッション、アパレルに関する基礎的な知識、技術を学ぶ。その後、それぞれの専門性を高めていくために、クリエイターコース、ビジネスコースに分かれ、あわせて1年生後半から選択できる科目を増やしていくカリキュラム編成とした。ファッション全般を学ぶ1年生前半で、自身の志望と現実との相性を見直し、さらにその後の卒業までの期間に学びたい事の適性を磨いていくことで、よりミスマッチのない就業へと繋げていく。</p> <p>○文化専門課程 美術を始めて学ぶ学生への対応や、各科・各コースにおける課題制作について、専任教員の増員や非常勤講師の出講時間を増加することによって、より丁寧な指導を行うカリキュラム編成とした。</p>	<p>○服飾専門課程 ファッションに関する知識、技術を幅広く学んでからのコース選択なので、自身の適正と進む方向とのミスマッチが減少した。但し、本年度入学の1年生からの実施であるため、効果の見極めは、次年度2年生となった後の学習状況と就職結果を見てからの判断となる。</p> <p>○文化専門課程 本年度は、基本的に各コマすべての時間に教員を置くカリキュラム編成とした。学生からは丁寧な指導でわかりやすいという声があった反面、一人で制作に没頭している時間も必要、あるいは教員毎の指導の輻輳といった声もあった。令和3年度はこうした声を総合的に勘案して再度カリキュラムの組み立てを行った。</p>	<p>コロナ禍は社会の様々な場面で急激な変化をもたらし、この中で本校のこれからの事業活動に大きな影響を与えていく変化も多々ある。日本のアパレル業界の行き詰まりの露呈、高齢者の活動に対する意識的・経済的な制約、出入国制限による留学生の動向などの変化は、本校の今後の在り方にもかかわる問題となる。</p> <p>次年度はこれらの変化への対応に着手するとともに、コロナ後の社会で存続していくための学校運営、カリキュラム編成の立案と具体化を進めていく。</p>

基準1 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材

【指標】

- 1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか
- 1-1-3 理念等の達成にむけ特色のある教育活動に取り組んでいるか
- 1-1-4 社会のニーズ等をふまえた将来構想を抱いているか

【現状】

- ・定められた理念・目的・育成人材像は学則、入学案内、キャンパスガイド、ホームページなどに広く一般に供覧し、入学前の学校説明会、学校見学、入学後のオリエンテーションなどにおいて、学生に周知している。
- ・入学案内をはじめ、各種媒体で各課程、各学科、の育成人材像を明示し、日常の授業の中でもそれを前提に指導を行っている。

【課題と解決にむけた方向性】

- ・必要とされる人材は社会の進展とともに変化していくので、その変化に対応するカリキュラムを速やかに組んでいく、また同業他校とは異なる授業科目を速やかに取り入れていくことが課題。

## 基準2 学校運営

2-2 運営方針 2-3 事業計画 2-4 運営組織 2-5 人事・給与制度 2-6 意思決定システム 2-7 情報システム

### 【指標】

- 2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか
- 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか
- 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか
- 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか
- 2-6-1 意思決定システムを整備しているか
- 2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか

### 【現状】

- ・運営方針については令和2年度事業計画、学園中期計画にて定めている。
- ・服飾課程のテクニカル系の仕事は海外生産とAIの進歩に伴い新卒での求人はゼロに近い状態で辛うじてお直しの領域だけとなっている。希望する場合、販売か営業職で一旦入社しチャンスを待つしかない。この学校が置かれた状況も同じことが言え、じっと待つか他校にない特色を持たせて生き残りを図るか、である。販売業務に関しても、Netビジネス拡大に伴い、修得すべき技術の変化がある。
- ・文化専門課程については、平成30年度にスタートさせたが、目論見通りの生徒数には達していない。2日制は日本画・版画コースは入学者増がみこまれ、彫刻コースは残留される方が多く純増、絵画コースは、カルチャースクール・通信教育含め苦戦している現状がある。
- ・組織運営については、理事会・評議員会を寄附行為に基づき開催、議事録も作成している。
- ・学校運営のための組織を整備し、組織図も作成している。規則、規定についても整備している。
- ・人事については、70歳を見据えた継続雇用が求められていくこと、また、副業に関する国の指針にて、副業が想定されていくことが考えられている。
- ・サイボウズオフィスを導入し、教職員のスケジュール等、情報共有は効率的に行えるようになっていく。

### 【課題と解決方法】

- ・服飾課程は、生き残りを図るための方向性を見つける必要がある。その時、テクニカル職域特性を残しながら専門学校の要件の一つである就業に結びつけられるかがポイントである。また、今の入学生性向も含め、実態と希望のマッチングもポイントである。Netビジネス拡大に伴う技術の変化に対応するためには、プログラミング等を含め、講師探しが急務。継続課題として当学園発祥の元である服飾課程そのものの継続が最も重要な部分であることには変わりはなく、現状を捉え、この国でのこれからの見据え、落としどころ探っていく。
- ・文化専門課程については、日本の美大進学目的で急増している中国人留学生にどう対処していくかが、一つ対策となる。中途半端に対応するのではなく、クラス編成するぐらいの覚悟で取り組むべきである。
- ・人事については、運用基準、規定を作成し、対応していく。
- ・業務の効率化、正確性等から情報管理システムを導入する必要がある。

基準3 教育活動

3-8 目標の達成 3-9 教育方法・評価等 3-10 成績評価・単位認定等 3-11 資格・免許の取得の指導体制 3-12 教員・教員組織

【指標】

- 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか
- 3-8-2 学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか
- 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか
- 3-9-3 キャリア教育を実施しているか
- 3-9-4 授業評価を実施しているか
- 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか
- 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか
- 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか
- 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか
- 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか
- 3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか
- 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか

【現状】

- ・授業目標と授業計画は各科目シラバスに明示するとともに、授業の中でも学生に周知している。
- ・授業内容や授業形態に関しては、基礎の重視に重点をおいた編成とし、加えてキャリア教育、実技教育を深化する科目を配置している。
- ・服飾課程では、就職支援室と教員が一体となってインターンシップ事前・事後教育を徹底して実施している。また、学生一人一人に合った支援をするために、キャリアコンサルティングを行っている。文化課程では発表できる作品の制作をしていくことを指導し、発表にチャレンジすること（個展の開催や公募展への参加）を奨励、バックアップしている。

【課題と解決方法】

- ・理念等に基づいて教育課程を編成、実施していくことを前提に、社会の変化にフレキシブルに対応していくことも必要。到達レベルに関しては、機会を捉えて教職員及び学生に周知していく。
- ・授業評価は取り組み始めたばかりなので、分析と活用のシステム構築に取り組んでいく。
- ・資格検定は、現状では服飾専門課程だけの課題である。カリキュラム上での位置づけ、指導体制については現状では特に問題ないと考えるが、社会的なニーズが顕在化し始め、有効と判断される資格には服飾、文化を問わず対応をしていく必要がある。

基準4 学修成果

4-13 就職率 4-14 資格・免許の取得率 4-15 卒業生の社会的評価

【指標】

- 4-13-1 就職率の向上が図られているか
- 4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか
- 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか

【現状】

- ・在学中の主な取得目標資格はファッション色彩能力検定・FB能力検定・洋裁技術検定・パターンメイキング技術検定などであるが、学科によって目標資格が違う。それぞれ対策講座や模擬試験など学内で実施しており、指導教員は合格目標を想定した指導にあっている。令和2年度からはパーソナルカラー検定も必須とした。
- ・就職担当、教員は卒業生とのコンタクトを卒後も恒常的に続けていて、在校生の就活支援や授業に招いて仕事の実体験の講話などで協力を仰いでいる。また、学外実習や職業体験の場の提供や実際の指導を卒業生に依頼することも多い。
- ・コロナ禍での就職率は、アパレル企業の業務不振等もあり、企業の求人数が大幅に削減され、学生の就職活動が厳しい。

【課題と解決方法】

- ・就職率の目標設定をクリアするためには、ファッション産業の認識と将来を見据えたライフキャリアプランニング教育が必要である。1年次からライフプラン・マネープラン等のキャリア授業を行うとともに卒業生のよきロールモデル等を招聘し、社会人になることの大切さについて生徒と近い目線で講演等を行ってもらう予定である。



基準 5 学生支援											
5-16	就職等進路	5-17	中途退学への対応	5-18	学生相談	5-19	学生生活	5-20	保護者との連携	5-21	卒業生・社会人
【指標】											
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか											
5-17-1 退学率の低減が図られているか											
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか											
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか											
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか											
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか											
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか											
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか											
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか											
5-21-1 卒業生の支援体制を整備しているか											
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか											
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか											
【現状】											
<p>・就職支援・進路相談・中途退学対応・学生相談・経済的支援・健康管理・課外活動への支援・保護者との連携など、すべてが十分とまでは言えないが現状で必要と考えられる学生支援の対策は講じられている。</p> <p>・令和2年度は4、5月が休校となり、6月から授業再開、授業時間を短くしラッシュ時間をさけた登下校とした。学費のうち、施設設備費の5分の1を返還、また学校独自のコロナの特別奨学金制度を設けた。</p>											
【課題と解決にむけた方向性】											
<p>・学生支援は、社会環境の変化に伴って学生にとって有効な支援も変わっていく。その時その時で学生のニーズに沿った支援の体制を組んでいけるように、支援に費やすことが出来る原資の適正な配分を考えながら、努めていく必要がある。</p>											

基準 6 教育環境

6-2-2 施設・設備等 6-2-3 学外学習。インターンシップ等 6-2-4 防災・安全管理

【指標】

- 6-2-2-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか
- 6-2-3-1 学外学習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか
- 6-2-4-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか
- 6-2-4-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか

【現状】

- ・コロナ禍における授業時間確保のため、遠隔授業（オンライン授業）用教育機器の導入、校内ネットワーク環境を整えるため、Wi-fi機器を設置する。
- ・服飾専門課程では、インターンシップは必修科目とし、単位取得を卒業の条件とし、実施要綱・マニュアルを整備している。クラス担任教員、インターンシップ担当教員及び就職支援室が情報を共有し、企業とも連携を密にして学生の要望も勘案して行っている。
- ・学外実習は各学科とも必要に応じて授業カリキュラムの中に組み込んで実施している。
- ・文化専門課程では、団体展への応募、グループ展、個展など外部での発表、CTCスペース（学内の路面展示スペース）での展示を授業の中で機会を捉えて指導、奨励している。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染防止策として、出入りに検温器、各教室にサーキュレーター、消毒液を設置。必要に応じ、パーテーションの設置、またフェイスガードを配付している。
- ・緊急時の教職員行動マニュアルを作成し、消防署指導のもと防災訓練を実施した。また、直下型地震等が想定される中、防災関連設備、非常食等の備蓄セットの再整備を行った。

【課題と解決方法】

- ・教室等の有効活用について、服飾専門課程及び文化専門課程を調整する必要がある。
- ・専門学校の特性から、教員・講師による実技授業が大半のため、座学を中心にオンライン授業を推進する必要がある。

<p>基準7 学生の募集と受入れ</p> <p>7-25 学生募集活動は、適正に行われているか 7-26 入学選考 7-27 学納金</p> <p><b>【指標】</b></p> <p>7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか</p> <p>7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか</p> <p>7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか</p> <p>7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか</p> <p>7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか</p> <p>7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか</p>
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服飾課程の学生募集において、ここ数年は服飾系専門学校への進学希望者の減少を理由に高等学校からの説明会参加依頼が減っており、高校訪問も行っていない。</li> <li>・両課程において、本校を訪問した学生や資料請求時のアンケートによると進学先はネット検索によって決めるとの回答が目立つことから、ホームページの更新やSNSの発信を積極的に行い、学生募集をふくめ情報提供を行っている。</li> <li>・コロナ禍のため、実際に本校まで出向いての入学相談や説明会参加が困難な希望者のために、リモートで対応できるように体制を整備し、HPでそれを積極的に訴求している。</li> <li>・オープンキャンパスにおいては、個別相談形式で丁寧に対応し、参加者の質問に具体的に答えられる体制を整えている。</li> <li>・入学選考基準と方法については、毎年度検討し、その結果を募集要項等に明確に記載、運用している。</li> </ul>
<p><b>【課題と解決方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスには、指定校以外の普通高校や通信制の高校からの参加者も増えているので、高等学校への入学案内配付についても再考する必要がある。</li> </ul>

基準8 財務

8-28 財務基盤 8-29 予算・収支計画 8-30 監査 8-31 財務情報の公開

【指標】

- 8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか
- 8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか
- 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか
- 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか
- 8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか
- 8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

【現状】

- ・学校会計の収入源は学納金収入である。定員充足率確保策に従い、危機感を持ち教職員一丸となって赤字体質の脱却に邁進しているが、コロナ禍での学生募集活動は先が読めず、入学予定者前年比若干減を想定し学納金収入は減収予想となり、学校として収入面では打撃となる。収益事業である「公開講座」の収益構造は大幅に改善し、令和3年度はプラスに転じる予定である。
- ・財務分析については、決算理事会にて毎年度主要項目について、財務状況調（財務分析係数表）を提示し報告している。
- ・予算編成は、理事長の基本方針に基づき編成し、理事会議決を経ることとし、その執行状況は毎月報告することを義務づけている。（経理規程）、予算の執行状況については、毎月報告することを義務づけし、流用等については理事長の承認を義務づけている。（経理規程）
- ・監事による業務監査は、監査法人による会計監査を行い、評議員会に諮問ののち、理事会で承認されている。
- ・評議員会・決算理事会において、事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録を審議に付託し承認を受けた後、法人事務局内にて閲覧に供し、ホームページ上でも一部公開している。

【課題と解決方法】

- ・毎年度事業計画に学生募集の重要性を記している。服飾課程は、少子化に加えコロナ禍でファッション業界の脆弱性が吐露され就職が厳しくなれば、現状はさらに厳しくなる。各コースのあり方を抜本的に見直しゼネラリスト育成に舵をきる。文化課程は2つの通学スタイル、4コース編成で非効率的な部分も多いので、画塾的鍛錬の場から体系的学びにバラレルに俯瞰し、マネジメント主体にシフトさせていく。他の学校にはない分野に特化する方向も視野に置く。
- ・決算時配付資料「財務状況調」から収支バランスの悪い「事項」を抽出し、分析検討する。
- ・消費収支計算書の当年度消費収支超過額は年々減少している。

基準9 法令等の遵守

9-32 関係法令、設置基準等の遵守 9-33 個人情報保護 9-34 学校評価 9-35 教育情報の公開

【指標】

- 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか
- 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか
- 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか
- 9-34-2 自己評価結果を公表しているか
- 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか
- 9-34-4 学校関係者結果を公表しているか
- 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか

【現状】

- ・本校は、学校教育法、専修学校設置基準他関係法令等を遵守し、学校運営を行っている。生徒に対しては、年度初めのオリエンテーション時に法令及び諸規程等の遵守について説明している。教職員に対しては、法令等の遵守について会議等で継続的に指導している。学校が保有する志願者、学生、卒業生及び教職員等に関する個人情報の保護については、最新の注意を払って取り扱っている。
- ・自己評価の実施と結果の公表を行い、学校関係者委員の方々に学校評価を依頼し、その評価結果を公表している。

【課題と解決方法】

- ・卒業生名簿等、紙ベースからデジタル化を推進する。
  - ・法令等の遵守、個人情報保護の対策等は、教職員については個々人の段階に応じた研修等で継続的に周知していく、と共に個人情報規程、基本方針を再整備する。
- 生徒に対しては、平日頃から継続的に個人情報の関する啓発活動を行なうこととしている。

基準10 社会貢献・地域貢献

10-36 社会貢献・地域貢献 10-37 ボランティア活動

【指標】

- 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地位貢献を行っているか
- 10-36-2 国際交流に取り組んでいるか
- 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

【現状】

- ・社会貢献、地域貢献として、学園祭イベントで教職員及び関係者による作品展兼オークション形式による作品販売を行い、その売上金を渋谷区に寄付していたが、令和2年度は学園祭が中止となり、そのイベントも行えなかった。
- ・本校の現在の規模と修学の現状では、学校としてのボランティア参加は困難なため、ボランティア団体からの依頼があれば学内で掲示し、個人的な参加の機会があることを周知し、参加の実績もある。一般社団法人SWJが取り組んでいる「使用済み歯ブラシの回収」に協力している。

【課題と解決方法】

- ・社会貢献、地域貢献あるいは、ボランティア活動も、学校の原点であるクリエイティブ性のある内容で、継続させていくことが課題である。

